

引っ越し「騒動」

1年前の今ごろの引っ越し「騒動」が思い起こされる。大阪市淀川区の「UR 賃貸」を契約して、引っ越し作業にとりかかる。

なぜ大阪市淀川区のURなのか。大阪については懸案の「課題」であった。なるべくアクセスが良く、とりわけ新幹線に近いところを探したら、淀川区となった。UR 賃貸は名古屋星ヶ丘の時から住み慣れていたからだ。引っ越しに備えて、大阪に来たときに、「物件探し」をしていた。

名古屋のUR 契約解除、引っ越し業者の手配などへと進む。何ととっても大変だったのが、膨大な荷物の片付けであった。写真は一部であるが、狭い書斎にぎっしりある本や書類、写真、DVDなどをどうするか。途方にくれながら、ぼちぼちと作業にとりかかった。



この際、徹底処分せよとの「厳命」のもと、処分する本の選別から始めた。退職時に大学研究室にあった本の多くは、学生たちに進呈し、最後はかなり処分した。自宅にもかなりの本があり、退職後さらに増えていった。「蔵書の苦しみ」を実感した。まずは、雑誌や書類の多くを処分することにした。問題は本である。

どの本を処分するか迷うばかりで、なかなか本が減らない。処分すると考えると気が重くなるので、図書館に「寄贈」することにした。図書館に相談すると、運用は任せるという条件で本を引き取ってもらうことになった。

車も自転車もないので、ショッピングカーに本を詰め込み、さらに大きな袋を肩に抱えて、何回も何回も図書館に運んだ。写真は地下鉄の星ヶ丘と東山公園の真中あたりにある名古屋市立千種図書館。すこし高台にあり、階段を上らないと入口に行けない。重い本を抱えて、何回も階段を上ったものだ。



日曜日には、星ヶ丘の自宅から本山の生協まで、よく歩いて買い物をした。行きだけ歩き、帰りは重い荷物をもって地下鉄で。雨上がりには、写真のような斜面に広がる苔を楽しむこともできた。そんな坂道を何回も重い本を運んだ。さいごには、退職後にお世話になった名古屋大中央図書館にも「寄贈」した。途中まで数えていたが、最終的にどれだけ図書館に「寄贈」したか定かでない。



腰痛に悩む身でありながら、今考えるとよく運んだものだと感心する。でも、あんな本まで「寄贈」してしまったと、すこし後悔することもある。

(2018年11月19日)